東環境・建築研究所 代表取締役

東利恵氏

建築のデザインで 公共性や社会性を 獲得する

聞き手…定行まり子+橋本彼路子

東利恵氏は東京・世田谷の集合住宅群「亀甲新」などの 住宅設計、星のや・星野温泉/トンボの湯などの 星野リゾートの設計を長きにわたり手がけられてきました。 父は建築史に残る「塔の家」など 都市型住居を中心とした作品で知られる東孝光氏。 東利恵氏と聞き手の2人は、日本女子大学附属高校と 同大学家政学部住居学科の同窓であり、 気さくな雰囲気でインタビューがすすみました。 そのため、読者は東利恵氏の今までのインタビューとは違う面を お感じになるのではないかと思います。

星野リゾートの星野佳路氏との 出会い、共に成長してきた経緯

定行 留学先としてコーネル大学を選んだ 理由はなんですか?

東 コーネル大学は海外留学生のためのサマースクールもあり、キャンパスが美しく、安全なところが気に入りました。この時の日本人留学生の私的集まりで、秋からホテルスクールに進学予定の星野さんと出会いました。コーネル大のホテルスクールは世界でもトップクラスの学部です。

定行 そこで星野氏との出会いがあったのですね。

東 当時、留学は会社から派遣されている 人が多く、学生からそのまま留学してきた私 たちは少数派で環境が似ていました。「なに かあったら連絡してね」と言ってくれたのを いいことに、私は1年目は車がなかったので スーパーや日本食レストランに行くために車 をお願いしたりしてました。2年目になると奥 さんも来られ、星野さんのバースデーケーキ をアメリカの甘いケーキミックスを使って奥 さんと2人で一緒につくったりしました。毎日 スタジオや勉強が忙しい中、日本語で話せる 貴重な友人でした。 定行 25年ほど前、恩師の小川信子先生 の定年退職の記念企画を進めていた頃、東 さんから「軽井沢の設計した所に来ない?」 というお話があり、皆でコテージやホテルで お食事をして、温泉に入って、「ここの家具 から備品まで選んでいる」など伺いました。

東 「トンボの湯」になる前の古い星野温 泉ホテルの時代だったと思います。ログコ テージの家具・置物などのコーディネートか ら始まり、ホテルブレストンコートを手がけました。施主と直接議論を交わしていく住宅設計のプロセスに近く、会社組織の会議とはまったく違う形でした。お互いの分野も議論を通して学びながら方法を探りました。星野さんは我々よりも数段大きく成長しました。その過程で施主が私たちを育ててくれたと同時に、私たちも施主に影響を与えた部分があると思っています。



写真1 星のや軽井沢(撮影…中道淳(ナカサアンドパートナーズ))



あずま・りえ

1959年大阪府生まれ。1982年日本女 子大学家政学部住居学科卒業。1984 年東京大学大学院工学系研究科建築 学専攻修士課程修了。1986年コーネ ル大学建築学科大学院修了後、東環 境・建築研究所代表取締役。現在、日 本女子大学・東京都立大学・日本大学 非常勤講師、主な作品に「星のや軽井 沢」「星のや富士」「星のや東京」「星の や沖縄」「亀甲新」「シーパルピア女川」 など。著書に『塔の家白書』など。主な 受賞に2018年都市景観大賞大賞 (シーパルピア女川+ハマテラス)、2018 年グッドデザイン賞(シーパルピア女川+ ハマテラス)、2018年AIJ 作品選集(星 のや富士、星のや東京)、2019年 AIJ 作 品選集(シーパルピア女川+ハマテラス)、 2019年土木学会デザイン賞最優秀賞 (シーパルピア女川+ハマテラス)、2020 年 AIJ 作品選集 (星のやバリ)、2021年 JIA 優秀建築選 (星のや沖縄) など

デザインに対するスタンスで 建築家が感じること

東 星野さんは中軽井沢の温泉旅館の息子さんでしたが、私は中軽井沢や星野温泉についてはよく知りませんでした。星野温泉エリアは温泉開発と交流のある文化人のための別荘開発から始まっています。大正時代に佐久で生糸業を営んでいた先祖が「火

山があるのだから、掘ったら温泉が出るに違いない」と掘って温泉が出て、別荘開発と旅館をはじめ、自家水力発電も整えたそうです。そのための調整池が今も「星のや」の池になっています。本館を壊した場所が「星のや軽井沢」[写真1]になり、コミュニティゾーンとして「ハルニレテラス」[写真2]を整備しました。最初はブライダルを軸とした「ホテルブレストンコート」をしっかりとまとめ、そ

の後「トンボの湯」「写真3]と、少しずつ戦略的に石橋をたたきながら計画をしてゆきました。25年ぐらいかかっています。

アメリカにいた頃、星野さんのお父様の 代に建設した「石の教会」の写真を見せて いただきました。デザインの重要性をこの教 会で経験し実感されていたのだと思います。 星野さんは、一つのエリアに対して大勢の建 築家を入れるのではなく、一人に任せるとい うスタンスで、割り切り方が合理的です。建 築のデザインはビジネス戦略になると確信 し、デザインの価値を読み取れる稀有な施 主かもしれないです。腑に落ちないことがあ ると「これって大丈夫なの?」と疑問形で聞 いてきますが結構鋭いですね。しかし、機能 面は言うけれども、デザインの良し悪しはわ かりませんというスタンスが基本で、自分の 好みを言うワンマンなタイプではありません。

人の居場所をイメージし 滞在型の宿泊施設をつくる

東 一般的に、日本のホテルはベッドルームとバスルームをセットにした寝るためだけの場所になっていることが多いですが、旅の寝室ではなくて、過ごすための場所、人の居場所をイメージしながら滞在型の宿泊施設をつくることをめざしています。くつろぐスペースと眠るための場所をつくるという、両方の側面を考えています。住居学科出身の



写真2 ハルニレテラス (撮影…中道淳 (ナカサアンドパートナーズ))



写真3 トンボの湯(撮影…中道淳(ナカサアンドパートナーズ))

私たちにとっては親しみのある言葉に床座があります。私は畳のある家で育っていないので、ちゃぶ台と座布団では全然くつろげない。外国人も若い人もそうであろうと、床座でくつろぐための工夫、床座リビングを考えました。想定としては3人の女性の旅です。大テーブルに座って、食べながらおしゃべりして、疲れてくると足を伸ばし、最後はこてんと横になってもいい、というタイプです。私みたいに床に座るのは嫌だという人のためにベンチソファタイプもつくりました。また、パブリックエリアのライブラリーにゴロゴロ寝台[写真4]を、「星のや軽井沢」で1カ所置きましたら、ゲストの取り合いとなりました。

ー緒に星のやをつくっているオンサイトの ランドスケープは、人が時間を過ごせる外 部の居場所をつくり込んでいくという同じ方 向を向いたデザインになっています。

「癒やし」「くつろぎ」は堅いので、キーワードは「ごろごろ」です。住宅設計や住居学科卒であるということが影響していると思います。準備期間の10年ぐらいの間に施主のマーケティングやブランディングのためのモニタリングに同席させてもらい、ターゲット層の意見を読むことを経験をさせてもらいました。たとえば、多くのモニターが「打放しコンクリートって冷たくて汚くて嫌いだよね」と話していて一般の人たちの生々しい意見として説得力をもっていました。

公共性、社会性

東 日本では民間企業の建築は公共建築ではないと思われています。私は民間企業のものを設計しているとき、パブリック性があれば公共性のある建築であり、社会に与え



写真4 ゴロゴロ寝台(撮影…橋本彼路子)

る影響は大きいと考えています。ニューヨークだと大規模開発のビルは民間の建物であっても、広場やアートをそれぞれ総工費の何%を使いなさいと法律で決めています。定行根深いものがあります。東さんの建築は素晴らしいけれども、公共建築ではないというところで線引きされてしまいます。

東 「星のや軽井沢」で、建築の評価として 「商業建築」であることがハードルになること を知りました。しかし、土木学会ではデザイ ン賞の審査員特別賞をいただきました。土 木の世界はほとんどが公共工事ですが、そ の評の中で「星のや軽井沢は限定されたお 客さんで公共ではないと議論になった。しか し、そのデザイン性において無視ができな い」と生々しく書いてくださりうれしいと思っ たことがあります。最近はボーダーをつくら ない若手の建築家が、商業建築とか公共性 とかのくくりを超えて、いろいろな挑戦をして いることがうれしいです。大学教育も一般教 養でもいいので、経済系などの基礎知識、 ブランディングやマーケティングがあるとい いですね。社会に出たときに武器になります。

一方で、デザイン賞の審査をいろいろな 分野のデザイナーと行っていたとき、社会性 の話をしているのが私だけで、プロダクトデ ザイン、グラフィックデザイン、インテリアデ ザインの人たちから「切り口が違いますね」 と言われたことがあります。建築系の人間は 方法論として、社会にどのように貢献してい るかでデザインの評価をしていると気がつい たことがあります。建築家のインテリアとイン テリアデザイナーのインテリアはそういう視 点では違いがあります。それぞれの見方や 考え方がありますので、インテリアデザイン の授業はインテリアデザイナーの視点を知る ことも大事だと思います。

ランドスケープアーキテクチャー との連携

東 「星のや軽井沢」では、ランドスケープ アーキテクトのオンサイトの長谷川浩己さん たちと星野さんとボリュームの並べ方などい ろんなシミュレーションをしてきました。小さ くなると建築コストは収まるけれど、収支的 には苦しくなるなどバランスが大事なので、



写真5 星のや竹富島 (撮影…中道淳 (ナカサアンドパートナーズ))

企画開発チームとそのバランスを議論することもあります。ランドスケープでもオンサイトは風景の一部として建築をつくっていくという感覚です[写真5]。日本では建築家の下にランドスケープが入ることが多いですけれど、施主・ランドスケープアーキテクト・建築家の3者で上下はありません。最初から同列に入って、お互い戦いながら進めていきます。

橋本 ランドスケープの提案から建築の形 や配置が変わることもありますか?

東 私たちの建築物を自由に配置を変えて 風景にしていくので戦いが起きます。外構 の表面的なデザインではなく、風景全体を 考えていく人たちです。建築の分野だけで 広い敷地を建築のひとつの視点だけで考え るより、彼らと手を組んだほうが隅々まで行 きわたるし、複合的なデザインができると思 います。建築中心ではない全体を見渡すラ ンドスケープアーキテクトの視点は重要だと 考えています。

橋本 戦いがあって、その結果から新たに スタートするということでお互いにリスペクト して仕事をしている関係性を感じます。ラン ドスケープの方から帰ってきて配置が変わっ ていたら、普通にびっくりしますよね。

東 お互いぶつかり合って、歩み寄ったりするほうがいいものになる。「配置を触るなん てとんでもない」と言う人もいると思います が、配置を変えたことで良くなっていたら素



直に「いいですね」といいます。「星のや」の ブランドは私たちとオンサイトのチームで やってきましたが、同じデザインチームであ ることで一つ一つの経験が次の展開に役 立っています。

魅力ある建築と街 亀甲新、千葉県の駅前の テナントビル、シーパルピア女川

定行 今日は、橋本さんと世田谷の集合住宅「亀甲新」[写真6]を見てからここに伺いました。

東 ありがとうございます。あのエリアの地主さんが施主で、長年にわたリ少しづつ何人かの建築家に集合住宅を設計してもらっています。何となく規模感が似ていますが、法的な許容容積率から決まっていません。

土地を守っていくために賃貸住宅を建てるから、魅力をつくらなくてはいけない。ワンルームでたくさん入れることよりも、大きい部屋で長く住む方に来てもらうほうがいい。つくり込まれた庭ではなく、既存の樹木を残したい。元々あった石畳を再利用するなどこだわりがあります。出入りの造園屋さんが集め、私のスタッフが全部ナンバー付けた石を、建築と森の間につくる小道に数や大きさを把握して配置をしたりもしました。土地の歴史を大切にしている施主です。

最近設計した千葉県の駅前のテナントビルは、上が集合住宅で下がテナントです[写真7]。そこも容積率に関係なく、総工費と収益で決まりました。階高も高く賃貸的ではないし、仕上げ材料も長持ちするものにしています。オープンハウスのときに近隣や銀行の

方から「天井が高いし、何か違うな」という 感想でした。郊外や地方に行くと、容積率 最大に建設しても入居者を入れるのは大変 なのでレンタブル比で考えなくてもよいのだ なと思いました。

定行 都内では超高層の開発の計画が続いています。

東 多くの建築家が反対しているのは明治神宮外苑のイチョウ並木の再開発計画ですね。一般的に再開発のためには増床が必要だと考えている人が多い。豊かさの意味は経済とイコールであると。30年で壊して、次に建てるものは以前より大きくないと計画は成立しにくいから、新陳代謝させて高層化する。それ以外の方法はないのでしょうか。江戸はペリーが来たとき、木造の低い町でした。あのままの密度の都市が残っていたら、どれほどの価値ある個性ある都市になったかと時々考えます。

定行 東日本大震災で大被害を受けた女川 に設計されたシーパルピア女川[写真8]は海 を意識された配置で印象的ですが、どのよ うに計画を進められたのでしょうか?

東 2015年9月頃に設計を開始し翌年の12月に竣工する条件の仕事で、工期から木造でつくると判断しました。真中が歩行者専用の町道で、その両サイドに5年の仮設を終えたいろんな店舗の人たちが入り、そこから商業エリアが派生的に広がっていく、つまり、まちづくりの最初のベースになる場所でした。敷地の高低差が2mあり、中庭で両サイドの敷地をつなげるデザインと考えた時、オンサイトの0Bの(株)プラットデザインの



写真6 亀甲新(撮影…橋本彼路子)



写真7 MITSUKADO (撮影…中道淳 (ナカサアンドパートナーズ))





写真8(2点ともに) シーパルピア女川(2点ともに撮影…中道淳(ナカサアンドパートナーズ))

松尾剛志さんたちに入ってもらいました。

プロムナードのデザインも知り合いの設計者でしたので、同じ材料を使ったりして官民のボーダーを消していきました。子どもたちが走り回れるような庭と人々が通り抜けるための路地をつくり、その先に再建をしていく商店につながっていくように抜け道をつくりました。

橋本 このお話は先ほどの公共と商業に ボーダーがあってはいけないというお話の 具体例となっていますね。

塔の家

定行 東さんは塔の家 [写真9] でお生まれに なったのですか?

東 小学校1年の入学のときに大阪から東



写真9 塔の家 (©村井修)

京に移り、秋に引っ越しました。父は坂倉準三建築研究所の新宿駅西口地下広場の設計担当として単身赴任していて、終わったら独立すると決めていました。原宿のマンションや八王子の造成中の住宅地を見て回った結果、母と父は「やっぱリ戸建てで街の中に住みたい」ということになりました。昭和の東京オリンピックのために住宅地の中を斜めに道路をつくったためにできた三角形の土地の一つです。しかし、敷地が今の倍の大きさで値段が高く買えないので、不動産屋さんに「半分に割ったらきっと売れますよ」と相談したら、「相手がいれば売ってあげるよ」といわれ、相手を見つけて入手しました。

設計は短期間で、施工も建築と設備と電気とも分離発注、サッシが入った程度で引っ越しました。コンクリートの床も左官が入っていないからガタガタで、ブルーのゴムの長尺みたいなシートを買って、母が床の形に合わせてジャキジャキと裁断し敷いていました。

最初の頃は賛否両論で、「こんなのは住宅じゃない」と激しい拒否反応がありましたが、「面白い」と言う人もいました。私が建築家になった頃には反対意見は少なくなり、時間の中で生き残る建築の強さを感じました。最初の段階の評価がすべて正しいわけではない、長い間評価を受ける建築を建てたいと常に思っています。

父母は30歳代そこそこでした。母は工夫が大好きな人なので、楽しく住んでいました。 父母とも、大阪の商家で町家のような場所で育っています。塔の家は、音は聞こえるけ ど視線は遮られる日本家屋的なとこがあります。プライバシーは、家族間の信頼の上にできてくる自然なルールの上に成立しており、マンションの個室にこもるような家族関係とは違う良さがあると思います。

定行 現在は所員さんが住んでいるそうですね。

東 両親から私に代わるとき半年ぐらい無人でしたが、空気もこもり雨漏りして荒れた感じになりました。10数年住んだ後、住みながら保存していくために、若い世代が住めるかどうかを実験的に行いたくて所内で募集し、「あみだくじ」で勝ち取った所員が住んでいます。

学びの時代 附属高校から日本女子大学、 東京大学、アメリカ

定行 日本女子大学附属高校を受験すると き、住居学科があるのはわかって入られた のですか?

東 わかっていましたが、住居は何となく家 庭科の延長線上のように捉えていました。 父からそういうところじゃないよと聞いたこと もありましたし、高校から美術を専攻するの は親が「早過ぎる」と言っていました。また 生田の山の上の校舎に憧れて行きました。

橋本 私も古い木造の校舎がとても好きで 入学を希望しました。

東 小学校が原宿の同潤会の裏にあり、木 造で田舎の小学校みたいで、高校が木造、 大学は古い校舎、コンクリートの箱のような 無味乾燥な学校建築は中学だけで、木造 経験が長くてよかったと思います。

大学進学は最初は史学を第一志望にし てましたが、高校で学科の説明を聞いた時、 史学学科の男の先生の説明がいまひとつで、 住居学科は小川信子先生が格好よく、てき ぱき説明されて、それで志望を変えました。 小川先生の研究室は自由な環境なのですが 厳しさもあり、また、女性の建築家のパイオ ニアの一人として、すてきな先生でした。

日本女子大は建築家の娘さんが多く在籍 され、楽な一面がありました。優秀作として 設計課題が貼り出されていると、誰かが手 伝っているのではと陰口を言われるのがとて も嫌でした。ですので、父が最初の設計課 題をのぞき込んだときに「どうなってるの」 と言われるだけで普段けんかなんかしない のに大げんかになって、設計の授業の話は 父と私の間ではタブーになりました。ある先 生が「東さんは絶対、手伝ってない感じだよ ね」とおっしゃっていたと知り合いから聞い たことがありましたが、とても幼い設計をし ていました。

附属でよかったのは、それぞれの親もい ろいろな方で、特別注目をされることもない 環境でした。大学もその延長線上でしたか ら、他大学に行っていたらストレスだったと 思います。住まい以外でも人の過ごし方や 何をデザインとして表現するかなど住居学 科がベースとなっているところが強いと思い ます。

東京大学へ進学するきっかけは、建築史 に興味があったので、鈴木博之先生の『建 築の世紀末』を読み、「こんなに文学的にお もしろく書かれているのか」と思ったことと、 同級生から東大の西洋建築史の授業にこっ そりと潜り込もうと誘われ、その授業に感銘 したことです。鈴木博之先生の授業は、西 洋史の一つの時代を一回の授業で解説し、 最後に先生が撮ったスライドで終わる。短 い授業の中で、その道筋は構造の戦い、た とえば窓をどうやって大きくしていくか、その ための構造など技術革新と様式の話をされ ていました。それで小川先生にお話をして、 大学院を受けることにしました。ただし、当 時、建築史の研究職以外に進むことが鈴木 博之先生からの条件でした。

私たちの学年は仲が良く、建築を見て 回ったり、勉強会で英文の建築家の本を読 んだりしてました。かなり多くの友人が建築 家になりました。修士課程の2年間が終わ リ、アメリカに留学しましたが、設計を一生 やれるかなと思ったのはアメリカに行ってか らです。父を知らない同じスタジオの友人た ちに認められて自信を持てるようになりまし た。アメリカでの設計の授業はハードで、一 日おきに半日のデザインエスキースなので、 自分の席から授業に出掛けて、授業が終 わったらまた戻って設計をするという生活を しました。

事務所所長就任

東 日本に帰る半年ぐらい前に、大阪大学 に行くことになったから事務所をやらないか と、父から電話がありました。アメリカに留 学していなかったらお飾りの所長さんになっ ていたと思います。親と一緒に事務所をする というのは大変なこともあるだろうけれど、 ラッキーなことも多いだろうと、学生からそ のまま所長になりました。でも、設計の新人 でもありましたから、父の代のスタッフが一 番大変だったかもしれません。いろいろなこ とを先輩から教わりました。

私が所長になって初めてのスタッフを探 す時に日本女子大の先生に紹介してもらっ たのが一学年下で現在の事務所のパート ナーです。「星野リゾート」の仕事が始まりだ した頃から次第に父の仕事と私の仕事が分 かれていき、「星のや」や「トンボの湯」の頃 から単独の仕事をするようになりました。

女性が働きやすい環境、 女性の活躍

定行 事務所を受け継いだ頃、女性は事務 所にいらっしゃったのですか?

東 父の時代は「女性を採らない」と言って いて、時代的にも女性が設計事務所に勤め ることが難しい時代でした。ですが、私が 入った後、女性のほうが小さな事務所に行 くのを怖がらないし、優秀でバランスが取れ ている感じで、今は男性・女性の区別がなく なり、個人の能力で見るようになってきまし

たので、時期によって男性が多かったり、女 性が多かったりですね。

橋本 所員は総勢何名で、女性はどのくら いの割合ですか?

東 プロジェクト契約の人もいるのですが、 約20名です。そのうち約10名程度が女性 ですから半々です。産休から戻って、時短で 保育園に子どもを預けながら働いている人 も2人います。経験を積んできた女性陣が 出産育児で辞めるのはもったいないので、 戻ってきて女性が働ける環境をつくることも 大事です。子どもが生まれるときにどう乗り 越えるか。10年ぐらいは元のようにフルに はできなくても、何年もかけて育ててきた人 は貴重な人材なので応援をするべきと思っ ています。

定行 アトリエ系の設計事務所でも産休を 取ってお仕事できて、継続性があるというこ とですね。

東 2人目の産休・育休のあと時短で戻っ てきている人もいます。2人目のときは辞め る覚悟だったようで「戻ってきていいのだか ら、そのとき決めればいいよ」と伝え、戻っ てきてくれました。

建築事務所で働きたい人が減っています が、アトリエ事務所の働き方も変わってきま した。締め切りの前は確かに終電かもしれ ないけど、時間があるときは定時に帰ります し、週休2日になっています。

橋本 建築業界で働く女性が少なかった時 代から、いままで住居学科の女性たちは建 築業界で働く女性のロールモデルになって きました。また、経営側になっても働く女性 たちの環境に対してもロールモデルを創っ ています。東先生は、まさにこの両方を実践 された方といえると思います。

定行 47都道府県の建築士会の会長は、 女性が一人もいなくて、いまだに完全な男 性社会です。是非、建築士会でも活躍して いる女性がリードしてほしいと思います。

東 設計は、夫婦でやってる人も多く、女性 が活躍できていますが、建築界が男女平等 になるのは大手組織事務所や建設会社の トップに女性がでてくるときだと思います。 今は誰も目指してないことが問題かもしれま せん。